

〈助け合い〉

比叡小学校

六年

山本 やまもと

伊知 いち

ぼくは、二年生の冬、足が急に動かなくな
 てしまい二ヵ月間車いすで生活している時
 期がありました。当時の記憶では、いきなり
 足に力が入らなくなつて立てなくなり病院に
 行ってお医者さんには「一時的なものだ、しば
 りく様子見ましよう」と言われました。いつ
 治るのだらうと、とても不安な気持ちでい
 ぱいでした。

そこからの二ヵ月間は、トムシに行く時も
 お風呂に入る時も、誰かの助けがないとで
 きず、歩けない事にとても不自由で嫌な気持
 ちだったのを、今でもは「キリ覚えをいます。
 そんな経験をしてから、ぼくはお買い物に
 行く時にスリパー等で車いすのトを見かける
 と、そのト困つてないかな？と、しきりに思
 うことがあります。車いすに乗っていている人
 は、自分で車いすをささす事もあるけれど、

した物を拾う事も一苦勞です。

この間スパーで、車いすに乗って、この間スパーで、車いすに乗って、

おぼろげに言っている人から、

「ありがとう。」とぼろげに言っている人から、

「ありがとう。」とぼろげに言っている人から、

「ありがとう。」とぼろげに言っている人から、

「ありがとう。」とぼろげに言っている人から、

「ありがとう。」とぼろげに言っている人から、

「ありがとう。」とぼろげに言っている人から、

「ありがとう。」とぼろげに言っている人から、

「ありがとう。」とぼろげに言っている人から、

「ありがとう。」とぼろげに言っている人から、

「ありがとう。」とぼろげに言っている人から、

「ありがとう。」とぼろげに言っている人から、

「ありがとう。」とぼろげに言っている人から、

「ありがとう。」とぼろげに言っている人から、

「ありがとう。」とぼろげに言っている人から、

「ありがとう。」とぼろげに言っている人から、

「ありがとう。」とぼろげに言っている人から、

「ありがとう。」とぼろげに言っている人から、